

個別の教育支援計画

幼稚園・保育所用

平成 年度

立 幼稚園

平成 年 月 日記入

記入者:

ふりがな		性別	生年月日	保護者氏名
氏名		男	平成 年 月 日	
住所	〒 - 市 町 丁目	電話番号	-	
生活の様子 (特記事項)	<ul style="list-style-type: none"> 着替えや持ち物の始末などは一人ででき、トイレは大人が促すと行ける。 独り遊びを好み、集団遊びには誘うと短い時間なら参加できる。 嫌なことに対して「ない」という言葉で意思をはっきり表す。その他の語いは多くないが、親しい教師とのやり取りが出来始めた。 	生育暦	歩き始め (歳 か月ころ) 指差し (歳 か月ころ) 始語 (歳 か月ころ) 平成 年 月 3歳児健診で言葉の遅れを指摘される。	
障害名(診断名)既往歴	熱性けいれん (歳 月)	諸検査の記録等	遠城寺式乳幼児発達検査 DQ 検査日 H 年 月 日	
本人の興味関心	<ul style="list-style-type: none"> ブロックやカード遊びを好む。 電車やバスなど大きな乗り物が好き。 	利用している機関	市障害児通園事業 (H 月~週1回) 病院小児科 (医師) (随時)	
保護者の願い 将来の希望	<ul style="list-style-type: none"> 友達とのかかわりが増えてほしい。 言葉をたくさん覚えてほしい。 地域の小学校への就学を希望。 			

支援の目標	<ul style="list-style-type: none"> 教師との安定した関係を基盤に、遊びの幅や人とのかかわりを広げる。 自分がしたいこと、相手にしてもらいたいことを伝えられるようにする。 		
	必要な支援内容	関係機関・支援者(連絡先)	評価・課題
	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援学校と連携をとり、本人の発達段階や特性に応じた支援方法を、遊びや生活場面に取り入れる。(H 年 月 日) 	担当教諭 特別支援教育コーディネーター 県立 特別支援学校コーディネーター (- -)	<ul style="list-style-type: none"> 担当教諭との共感関係が深まるにつれ、安心して集団活動に参加し始めた。(H 年 月 日)
	<ul style="list-style-type: none"> 通園事業 において、週1回、OT、ST、心理士等による個別の発達援助を行う。事業所と連携し、支援方針や方法を集団での保育場面にも反映する。(H 年 月 日) 	市障害児通園事業 (- -) 担当教諭 特別支援教育コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> 共感的な言葉のやり取りや本人の興味にそった活動設定など、共通の方針のもとで実践できた。(H 年 月 日)

相談・ケース会議の記録			
月日	実施方法	相談・協議内容	確認事項
H 年 月 日	〔電話による相談〕 県立 特別支援学校 担当:	<ul style="list-style-type: none"> 本人の様子と問題点 今後の対処方法 	<ul style="list-style-type: none"> 来校し、本人を観察してもらった上で、ケース会議を開き、今後の支援について検討する。
H 年 月 日	〔ケース会議〕 県立 特別支援学校 () HR担任、特別支援教育コーディネーター、学年主任	<ul style="list-style-type: none"> 本人の現状理解 支援方針と具体的な手だて 	<ul style="list-style-type: none"> かかわるときの基本姿勢(共感的、受容的態度) 本人の興味関心を生かして集団参加を促す方法

特別支援教育校内委員会 巡回相談・専門家チーム等の記録		
日時	参加者	協議内容・引継事項等
H 年 月 日	園長、主任教諭、特別支援教育コーディネーター、担当教諭、同年齢児担当教諭	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活、家庭生活の状況、当面している課題 遊び、生活場面における支援方法の共通理解 特別支援学校や相談専門機関の利用

上記の計画について、了承いたします。

年 月 日

保護者署名

印